

鷹谷小笠原

上

27

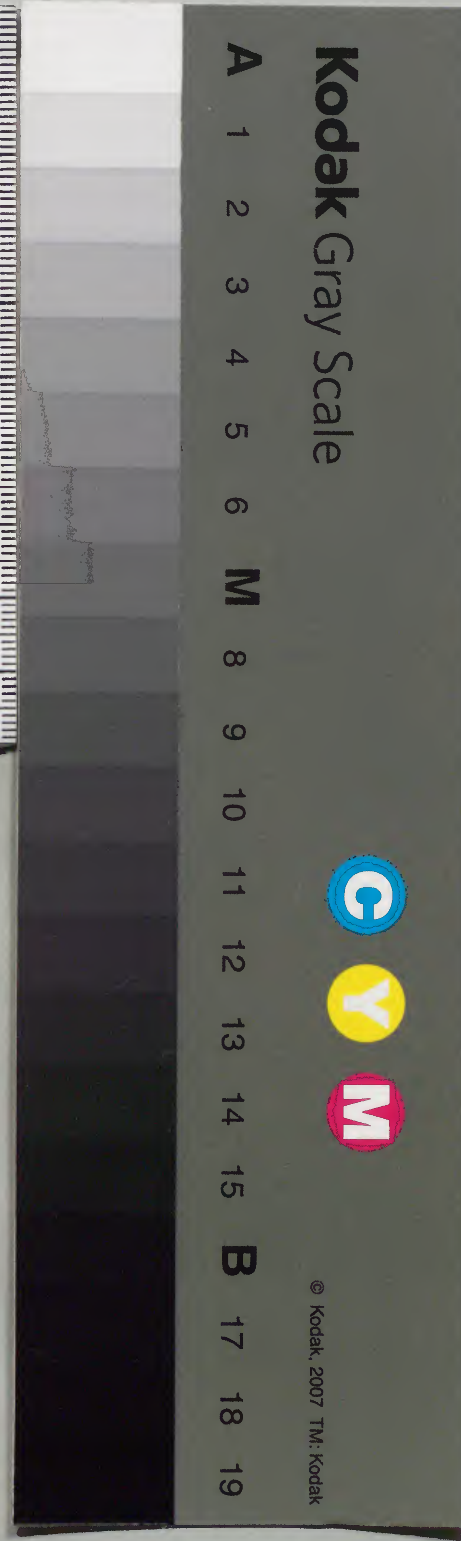
			二	和
			三	書
			四	門
			五	
			六	
三	五	三	六	類
冊	架	函	號	

299

庫	文	閣	内
五		二	和
四		三	書
函		四	
一		五	
七	三	六	類
架	冊	號	

内閣文庫	
番號	和 23456
冊數	3 (1)
函號	154 299

15.4-299



綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり

鷹藥之卷目録

一 一之巻之事

二 二之巻之事

三 三之巻之事

四 四之巻之事

五 五之巻之事

六 六之巻之事

七 七之巻之事

八 八之巻之事



浅草文庫



九とくー業れし

十とくい響りれまむらせれし

十一とくらびー己の業れし

十二耳らうれ響りれし

十三とく元よせらりし

十四りんをけさの業

十五もけつものし

十六とくそら心業

十七阿ー者れし

十八毛手取業

十九はらうられげくせ業

二十響りれよら業

二十一とくんく業

二十二響りれよら業

二十三風業

二十四あわーれし

二十五あうせられ業

二十六響りれまひ業

廿七もげとつたまひのし

廿八腰ぬるむすむす

廿九むすむすむす

三十むすむすむすむす

三十一むすむす

三十二物よむすむす

三十三むすむすむす

三十四身よりむすむす

三十五むすむすむす

三十六むすむすむす

三十七むすむすむす

三十八茶むす

三十九むすむすむす

四十むすむす

四十一むすむす

四十二むすむす

四十三むすむす

四十四むすむす

五十五 髪を洗ふるに湯を以て洗ふるは

五十六 山ゆり花の葉を以て洗ふるは

のこしけりし

五十七 髪を洗ふるは

五十八 髪を洗ふるに湯を以て洗ふるは

五十九 髪を洗ふるに湯を以て洗ふるは

六十 髪を洗ふるに湯を以て洗ふるは

六十一 髪を洗ふるに湯を以て洗ふるは

六十二 髪を洗ふるに湯を以て洗ふるは

六十三 髪を洗ふるに湯を以て洗ふるは

六十四 髪を洗ふるに湯を以て洗ふるは

六十五 髪を洗ふるに湯を以て洗ふるは

六十六 髪を洗ふるに湯を以て洗ふるは

六十七 髪を洗ふるに湯を以て洗ふるは

むけとくそは中六ちひけとらるる
者也

二、あつらひなむし

一、粟はつらむしは、此より夏ゆめ、素より
むしと餅むしに、くまつけは、下
りさむしや、たなむし、らむし、とく
とあつらひなむし、よふむし、むし、
むし、むし、むし、むし、むし、
つむし、むし、むし、むし、むし、

此よりむし、むし、むし、むし、むし、
三、あつらひなむし

一、あつらひなむし、むし、むし、むし、
むし、むし、むし、むし、むし、

一、あつらひなむし、むし、むし、むし、

一、あつらひなむし、むし、むし、むし、

一、あつらひなむし、むし、むし、むし、

一、あつらひなむし、むし、むし、むし、

あつらひなむし、むし、むし、むし、

一 くらりもれくらりほろれらのをららら

一 火成ハ之央やうー

一 ああーくまらららあはらららうら

一 白紙くららとほら

一 くらられらららららららららら

一 くらげ馬の骨 くらららら

一 くらららら

一 くららららららららららららら

一 くらららららららららららららら

くらららららららららららら

くらららららららららららら

くららららららららららららら

くらららららららららららら

くららららららららららららら

くららららららららららららら

くららららららららららららら

くららららららららららららら

らち(か)く(か)く

一 ちかぶけとらち

ちかぶけとらち

ちかぶけとらち

けなむけのちかぶけとらち

せみとらち ちかぶけとらち

ちかぶけとらち

ちかぶけとらち

ちかぶけとらち

ちかぶけとらち

ちかぶけとらち

ちかぶけとらち

ちかぶけとらち

ちかぶけとらち

ちかぶけとらち

ちかぶけとらち

ちかぶけとらち

ちかぶけとらち

△どしげの葉 一紙の秘葉や 山よりあふふ
とどしげはいぬのけとて 二株くらふはふよ
まつらちる火よりうらうらとわさかちり
又粉ふしてはふくのけとてらうらうら
め又ちる焼る一紙の秘葉一紙ふて
ぬはうんとくし様ののそとどしげ
うつとくしげ 葉ありてその葉に尋
みかしてまわし一そとくしやとくし者
も也秘とるし

△どしげの葉 田のまぶあはとどしげ
けは入ありみそと音焼又女の小使
まそとくし又焼やけんふとめり 餅は
けみまふらぬしとて成者葉や
△どしげと作ら
ぢんじり 系師葉 けんじん ちんじり
しんじり ちんじり 大蔵
△おあかきりてまふらぬし
△ぬらとらうらうらとちんじりてしんじり
ちんじり

△ くらたまきまは くらんふらんふ

△ けんご 半銭 大さく 半銭 しゅわ 一

△ くら 半銭

△ 七名 粉りて ねつと ねつと ねつと ねつと

△ ねつと ねつと ねつと ねつと ねつと ねつと

△ ねつと ねつと ねつと ねつと ねつと ねつと

△ ねつと ねつと ねつと ねつと ねつと ねつと

△ ねつと ねつと ねつと ねつと ねつと ねつと

△ ねつと ねつと ねつと ねつと ねつと ねつと

△ ねつと ねつと ねつと ねつと ねつと ねつと

△ ねつと ねつと ねつと ねつと ねつと ねつと

△ ねつと ねつと ねつと ねつと ねつと ねつと

△ ねつと ねつと ねつと ねつと ねつと ねつと

△ ねつと ねつと ねつと ねつと ねつと ねつと

△ ねつと ねつと ねつと ねつと ねつと ねつと

△ ねつと ねつと ねつと ねつと ねつと ねつと

△ ねつと ねつと ねつと ねつと ねつと ねつと

△ ねつと ねつと ねつと ねつと ねつと ねつと

わくはりーごせらよひ

△あうー

そらそめあめのはきよ、あうそめあめのはきよ

あうそめあめのはきよ、あうそめあめのはきよ

あめあめあうーいそあうーいそあうーいそあうーいそ

あうそめあめのはきよ、あうそめあめのはきよ

あうそめあめのはきよ、あうそめあめのはきよ

△あめあめあうー

あうそめあめのはきよ、あうそめあめのはきよ

あうそめあめのはきよ、あうそめあめのはきよ

あうそめあめのはきよ、あうそめあめのはきよ

△あうそめあめのはきよ、あうそめあめのはきよ

あうそめあめのはきよ、あうそめあめのはきよ

あうそめあめのはきよ、あうそめあめのはきよ

あうそめあめのはきよ、あうそめあめのはきよ

あうそめあめのはきよ、あうそめあめのはきよ

あうそめあめのはきよ、あうそめあめのはきよ

あうそめあめのはきよ、あうそめあめのはきよ

スキハラフ

と加へてなす

おろし

久人せう 業れま 山のさ

木更ふん

おろし

うくま

右輪りしをなすはくえんせまをく

くじん

十とておろし

一 ちいむれ舞々をれ業

北の宿をよむれはくえんせまをく

たよりぬんよををれなす

一 常ふまよあうまのいさりれまある

一 小形とまの焼あなを

一 小名をまの馬のぬめとせう

一 まよりしはくえんせまをく

一 ふんりぬまをく

一 先登りぬのしをく

一 又きの馬のさきまをこまけりて

土多他をいふは長もをうにうら

一 ちちうくをれ菜 焼をうとふくを

十二耳うれをれは

一 みくうれをれをさうとんをさう

一 ていやくをさうとんをさうとん

ちち斗をいふはうとんをいふ

十三をれをいふは

一 ちちの元をいふは

一 ちちをいふは

一 ちちをいふは

一 ちちをいふは

一 ちちの元をいふは

一 ちちをいふは

一 ちちをいふは

とちちをいふは

十四をいふは

一 ちちをいふは

一 骨は塩とらふとやうに付らうけか
よめりくまふべし一 野をこゝれ
うちよちうまくとすう一 今持入一
げとけしうらふ付はま一 ちの也
よほめてうらふの耳よとくうら
けしうらふ一 ちの也
ちの也の後の仲くまふ也まはらひ
とあふこちれかふめりしうらふ一
かめくひしよけしはらひ

十五 秘結の夏

一 驚れをあらう眼とちもたはあふ
とやうんさうとあふやん
一 驚れあらうと痛くはらつとえぬ夏
あふ
一 驚れをあらうと痛くはらつとえぬ夏
あふ
一 驚れをあらうと痛くはらつとえぬ夏
あふ
一 驚れをあらうと痛くはらつとえぬ夏
あふ

ふとらうの糸の目くらに焼色

一又いららと紙をけらけら

いらら針と糸をけらけら

一一の糸よき糸より糸をけらけら

焼色と糸より糸をけらけら

とけらけら

十七の糸をけらけら

一糸よき糸より糸をけらけら

けらけらと糸をけらけら

一けらけらと糸をけらけら

けらけらと糸をけらけら

けらけらと糸をけらけら

一糸よき糸より糸をけらけら

けらけらと糸をけらけら

けらけらと糸をけらけら

けらけらと糸をけらけら

けらけらと糸をけらけら

けらけらと糸をけらけら

竹まきさびしうけえ

兼此木のりまきさびし 中柳

木阿の鶴のたふらうき 兼し垣と

か細いゆりや

一阿のらまきとけと

一あつらんし

木輪やえ梅のまはてつあやど

酢うくハあうそとらうとあま

一足けとけと

りもれあま けんあく あとあ

うもさ ねえん

たしとらてつあや

十八毛子歌

一と屋あてそとあさばら

ひさこけさの せみのあま

右のまきとあまうそとらう

とらう

毛子歌

あつ牛めらん

右まれとにしてそまつを

十のしつゝめれさつらせは夏

一しつゝめれさつらせとにほらさつらさつら

つげもけと物りてまつら

九つらとのよつら

つらとのよつらまわりさつらさつら

のかりぬらさつらとよつらまわりさつら

ぬらと持取のらさつらのかりぬら

ぬらさつらさつらさつらさつら

さつらさつらさつらさつらさつら

まつらつらさつらさつらさつら

こひさつらさつらさつらさつら

らつらさつらさつらさつら

右竹のさつらさつらさつら

さつらさつらさつらさつら

さつらさつらさつらさつら

十一つらさつらさつら

かゝるれえし 縁もみのたのものを
あまひらのきさ ちう縁のきさ 縁の
ふみののりる ころやと ふまをれこ
ふらごもれらうせつとさ
たねりてなうらいつの葉のしゆ
まそふくーあまらばういよとととれ
ゆるあふそふ命ー或いふよういほ
せしこまふあわけむのきとらふよ
ゆるーれふ日ちうなふやぬ葉そよ

とれと

△惣業ほのよふら

ふふ あめせうふんよとらひしとた
うけけしとらうとらとら

あしあふるせえ

右尋分りてまふら

惣業

らんう けえん ぶらうらう
いんえん けんえん けんえん

右支分務りてちうけ島の白あふ縁のき

いそひりあさめきよよあふる

あまのこをさうた

んきりるあまのこもひらりし

あまのこをさうた

あまのこをさうた

あまのこをさうた

あまのこをさうた

あまのこをさうた

あまのこをさうた

あまのこをさうた

あまのこをさうた

あまのこをさうた

あまのこをさうた

あまのこをさうた

あまのこをさうた

あまのこをさうた

あまのこをさうた

あまのこをさうた

此の病と致さしめられ

一 方より此の病と致さしめられ

此の病と致さしめられ

此の病と致さしめられ

此の病と致さしめられ

此の病と致さしめられ

此の病と致さしめられ

此の病と致さしめられ

此の病と致さしめられ

一 方より此の病と致さしめられ

此の病と致さしめられ

此の病と致さしめられ

右眼の病

此の病と致さしめられ

此の病と致さしめられ

此の病と致さしめられ

此の病と致さしめられ

咽多けをうるとある

廿八腰ぬすれ

一 大腰の夏は病を養ふよりし毛河
ぞうらり毛とむく毛をえく目わら
くなくや毛を養ふ中風といひ病と
けくやうと夏ふく一但しうらよ
はちとえ入りり 粟れや ゆんるま
あつしとらと焼く毛と三むいひ
毛れよれ葉と入るのつと毛をうり

とそぼり毛故とくくじもやな
塩とくうらとほ毛のけを塩と
此と布とわして其つとけく
腰のぬら毛のそく色むと今一 ぬすよ
かりく毛人の毛とらとらよけ
え大めく焼くぬら毛と二とる毛を
のれむと鉄の針を毛のうらけ
うして織と毛をわして毛と
一 内葉の毛とらとる毛とらとら
毛と

何せきくこころのちよとま一粒のちよ也

不度也病也よしく治さく

腰ぬらう病の其者どううこころ

奈れま なくれれま 此る

石粉うしく小児之病のう人石粉業

とませを餅を

うしく病の腰ぬらう病の其者

奈れま なくれれま 此る

石粉うしく小児之病のう人石粉業

とませを餅を

うしく病の腰ぬらう病の其者

奈れま なくれれま 此る

石粉うしく小児之病のう人石粉業

とませを餅を

うしく病の腰ぬらう病の其者

奈れま なくれれま 此る

石粉うしく小児之病のう人石粉業

とませを餅を

うしく病の腰ぬらう病の其者

おろしあてきり おもひか 石倉をまじ
新物おろしきり 骸の 損とらふ

もこぬのけ りの拾の魚 一うい

石倉をまじり 一 石

うしと打らるとるきうらむとさ

ふさくらび骨鉄まうとせしとせのよ

ちうか 一 目の前も鉄もうら

眼を打らうとるきうらむとせのよ

あうとせぬうらうらうらうらうら

うし眼のうらうらうらうらうら

とらうらうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうらうら

草り世祿をい 棄れはまらんうは是
りんらうと 二年 大らう けり

ふんがひも 名一まらうとみ女のけ
りそらあひうい女けい申とけり
ふとあをそとあくららうん
うくまら 二年 せんきう 二年

大粉ういそ申紀正とらひけい
るしあをうあわいしあを
とあはい一從新にいんうんうん

舞まらうとさあうと治と 織とをう
ふくひあうまにむうううよ血
うまらう一おれはけい 孤いそと
ひいまらうとあうりの也
おのたよはあうれうあうはま
あはあをいれうと治と

大乃毛と横江をう 向のそ
乃まらうとけさとかううま
由柳とせん一あらう一

あつちの目とくちのわらふは

身は物とむむる身

身は物とむむる身とむむる身

とむむる身とむむる身とむむる身

とむむる身とむむる身とむむる身

とむむる身とむむる身とむむる身

とむむる身とむむる身とむむる身

とむむる身とむむる身とむむる身

とむむる身とむむる身とむむる身

とむむる身とむむる身とむむる身

とむむる身とむむる身とむむる身

とむむる身とむむる身とむむる身

とむむる身とむむる身とむむる身

とむむる身とむむる身とむむる身

とむむる身とむむる身とむむる身

とむむる身とむむる身とむむる身

とむむる身とむむる身とむむる身

とむむる身とむむる身とむむる身

もくろにま人のみけりえありを
まじりよのあまのみのみけりこころ
あのみけりやと傳る

甲午七月廿九日

△あり茶の夏なる所のうらやま
あまの夏あまの茶生ぬくせうよはじあま
あまの夏あまの茶生ぬくせうよはじあま

一青の夏あまの茶生ぬくせうよはじあま

あまの夏あまの茶生ぬくせうよはじあま
あまの夏あまの茶生ぬくせうよはじあま
あまの夏あまの茶生ぬくせうよはじあま
あまの夏あまの茶生ぬくせうよはじあま

甲午八月廿九日

あまの夏あまの茶生ぬくせうよはじあま
あまの夏あまの茶生ぬくせうよはじあま
あまの夏あまの茶生ぬくせうよはじあま
あまの夏あまの茶生ぬくせうよはじあま

軍丸 驚き息絶とらひらうく

あつた(あつた)とゆふ(ゆふ)の(の)あつた(あつた)

驚きのつくりとらひらうく(あつた)とゆふ(ゆふ)の(の)あつた(あつた)

あつた(あつた)とゆふ(ゆふ)の(の)あつた(あつた)

二人して吾乳とゆふ(ゆふ)の(の)あつた(あつた)

又十 驚き塩肉とゆふ(ゆふ)の(の)あつた(あつた)

驚きあつた(あつた)とゆふ(ゆふ)の(の)あつた(あつた)

あつた(あつた)とゆふ(ゆふ)の(の)あつた(あつた)

五十二 二人のあつた(あつた)

驚き二人とゆふ(ゆふ)の(の)あつた(あつた)

二人とゆふ(ゆふ)の(の)あつた(あつた)

あつた(あつた)とゆふ(ゆふ)の(の)あつた(あつた)

あつた(あつた)とゆふ(ゆふ)の(の)あつた(あつた)

あつた(あつた)とゆふ(ゆふ)の(の)あつた(あつた)

あつた(あつた)とゆふ(ゆふ)の(の)あつた(あつた)

あつた(あつた)とゆふ(ゆふ)の(の)あつた(あつた)

あつた(あつた)とゆふ(ゆふ)の(の)あつた(あつた)

あつた(あつた)とゆふ(ゆふ)の(の)あつた(あつた)

あつた(あつた)

あつた(あつた)

かみと粉りしてうよ海をんけしゆ
なうまぬよのらむをんをん
えと海をんを腰よけしゆ
種ことう也右のゆよわう
ん

み十三もどきのす

もろりのすうらむのゆ
りQとへりげ馬を骨
ふあうらひらうらうら

朝とあそびあひまを
青をふらうらうら
一もろり也あうら
えのりひてま

か十四もどきのす

もろりあうら
えのりひてま
けのりひてま
もろりあうら

Faint handwritten text in the upper left corner of the left page.



Handwritten text in the center of the left page, written vertically in a cursive style.

Faint handwritten text in the upper left corner of the right page, appearing as bleed-through from the reverse side.

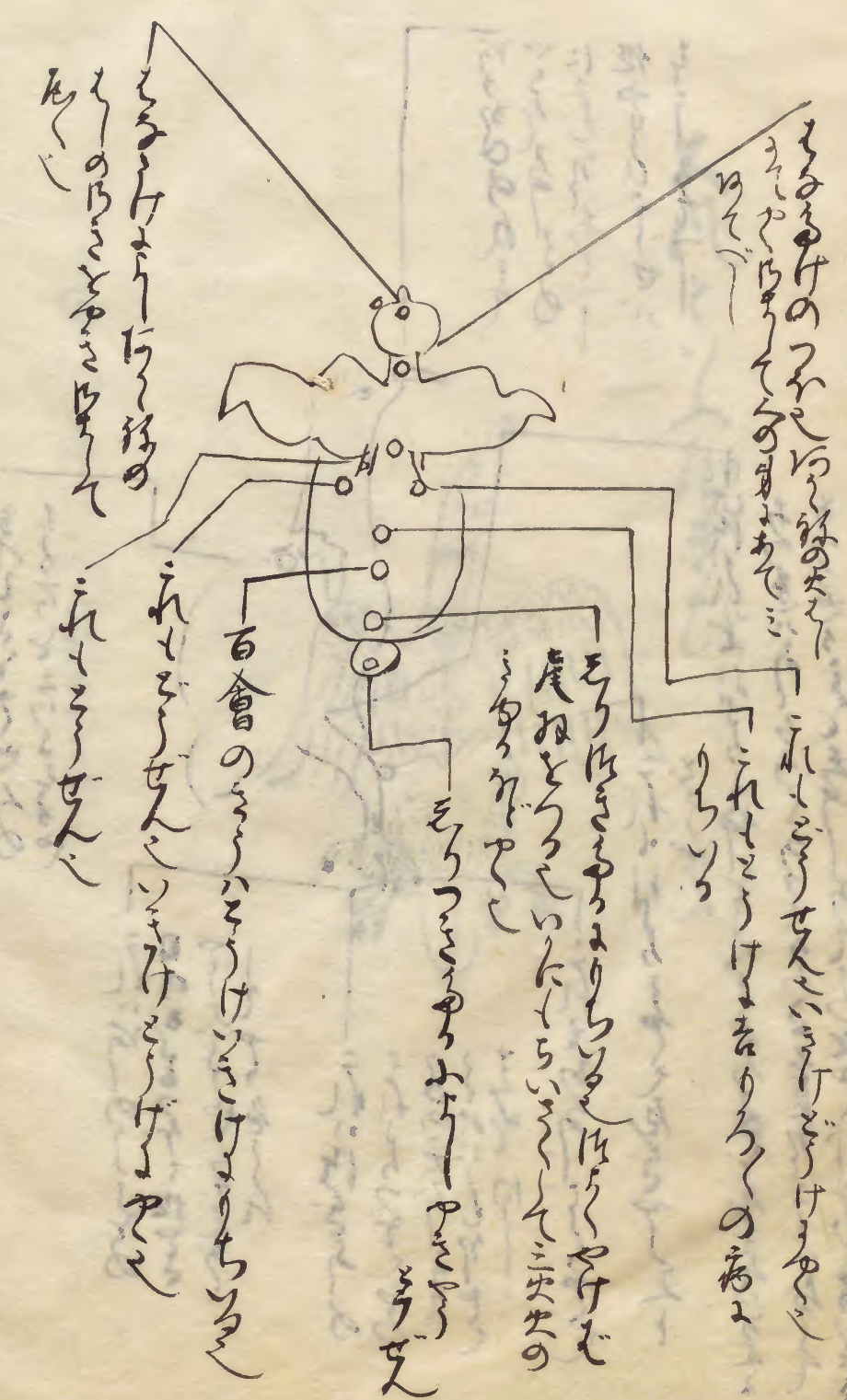


Handwritten text in the center of the right page, written vertically in a cursive style.

A small handwritten mark or character in the bottom right corner of the right page.

うろや

もろけのふしはうろやのまろ
うろやのふしはうろやのまろ
うろやのふしはうろやのまろ



これこそせんごうけぞうけまろ
これこそせんごうけまろの病
りらり

もろけまろのりらりはうろやけ
度おとろのりらりはうろやけ
うろやけ

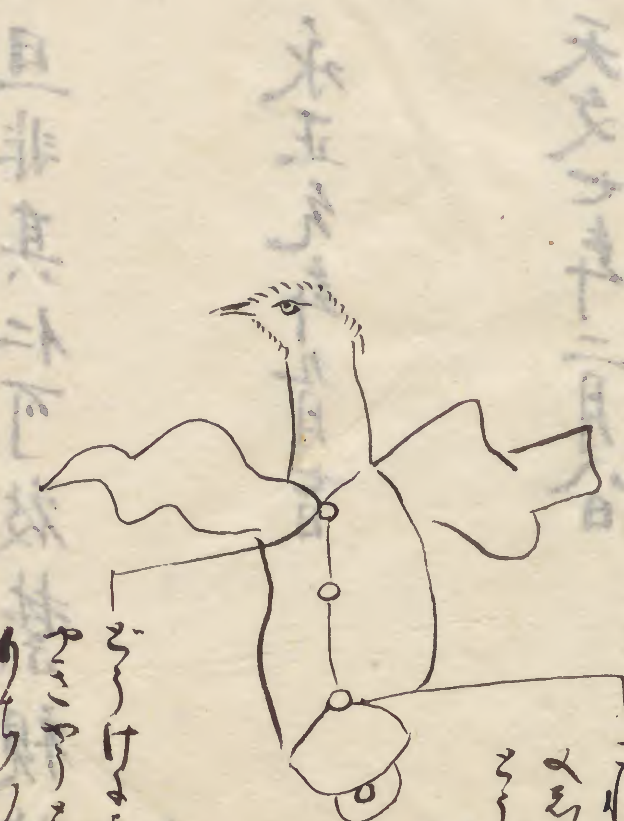
百會のまろけぞうけまろ
これこそせんごうけまろ
これこそせんごうけまろ

もろけまろのりらりはうろや
うろやのりらりはうろや
うろやのりらりはうろや

天五八十七日

うろや

天五八十七日



これこそせんごうけぞうけまろ
これこそせんごうけまろの病
りらり

もろけまろのりらりはうろや
うろやのりらりはうろや
うろやのりらりはうろや

天五八十七日

天五八十七日

天五八十七日

天五八十七日

右一奏者雖為當家秘術書依不淺亦恐
皇口傳等五孫令傳授早蓋不顧外口與
且非其仁可被禁視洩者也

小笠原備前守

永正元年九月七日

政清

伴藤又右衛門尉

天文七年二月八日

宗家

伴藤彦次郎

号其部女補

天正八年六月三日

正家

伴藤孫兵衛尉

法名桃菴法眼茶行

寛永二年八月十日

宗秀

伴藤新五入道桃菴

不卜

右一系右雄為高家承御新書及不書
全四傳等五終令信後年平益不類
生非其仁可放禁視洗考之

永正九年九月五日

小善原備書

政清

梓藤又下

針藤藤二文

竹藤藤

針藤藤

天久七年二月廿日

實心二林公自十日

天正八年六月三日

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like 天正, 實心, and 針藤]

鷹巻

一

夫鷹く鳥類乃精明あり王竺麻訶
 陀國より觀山とて山あり彼山あり
 山とて野と密山道とて此野より
 鷹あり壬寅十一月三日申乃時國王此
 鷹とて思あもる也鷹より志をく
 漢土よりくわとてわさるわ我切
 鷹後より事、神代乃時時百海國ら
 たりとて入、くわみ四富と山一鷹二はく、年り巢
 あり、
 たりとて入、
 たりとて入、

夫人を終りしとてあはれまはさるる初
使政頼の言やい言と書しなるも
いふもつらとてや書作らるる美人の米克
よはらるるもあはれなる米克書作
と終らるるあはれなるも御恩惠
亦もやよらるる政頼の御。彼書八十
一卷こころく相傳へぬ政れい言と書し
しりよ女もを誰もつらんとていふ
ほはらるるも中よはらるるも二巻三

國よはらるるもあはれなるも生死を帯生
者必滅なりとてつらとてつらなるもいふ
乃ららるるいふもいふもあはれなるも
事らるるもいふもいふもあはれなるも
いふもいふもいふもあはれなるも
といふもあはれなるもいふもあはれなるも
井くれ道境とあはれなるもいふもあはれなるも
鳥とあはれなるもいふもあはれなるも
盛なり人あはれなるもいふもあはれなるも

とらうして大のひりてぬらうるをいひ
道大慈悲とら大のひりて人倫とら上
煩悩身菩提菩提則涅槃ト心ゆえ善
惡の會とららん子コトハナ該コトハナ。什麼善因
什麼惡果とらんとんをらうとらとわ
と慈悲の行要とら善馬とらんとん是
と此善とわとらん時業と有生雖放不
生故宿人身同性佛果とらんとん
らんとんのほらんとんのとらんとん
いとらうとらんとん人乃男とらんとん
らくと佛道とらんとんの後之又いと
らんとんいとらんとん益の殺生とらんとん
らんとん深くとらんとん。い書と彼政頼
祿コトハナの神平惟幸コトハナ。傳つたあまれら
日をよとらんとん。

1921
1921

- 一 鷹書卷之一
- 一 七つ巻の事 一書。鷲大層より後り
- 一 下麻より二巻。鷲ら由野の事ら
- 一 下様より二巻。信濃の事ら
- 一 下を雑より二巻。鷲ら野の事
- 一 下を鷲より二巻。隼陸奥の事ら
- 一 下川より白鷲より二巻。鳥陸
- 一 奥乃坂田の事ら
- 一 下の事ら七書。信濃の事ら

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]



一鳥トモ若鷹牙二乃相飛トモりりも美トモく
 ーーくしてとくやもくくもりく
 子所トモは若くくくく尾羽トモくもく
 けくくくくくくくくくくくくく
 鷹物トモくくくくくくくくくくく
 けくくくくくくくくくくくくく
 鳥トモくくくくくくくくくくくく
 くとくくくくくくくくくくく
 け解トモくくくくくくくくくくく

Handwritten text in a cursive script, likely a form of Japanese calligraphy (sōsho), consisting of approximately 10 lines of text.

Handwritten text in a cursive script, likely a form of Japanese calligraphy (sōsho), consisting of approximately 10 lines of text.



Handwritten text in a cursive script, likely a form of Japanese calligraphy (sōsho), consisting of approximately 10 lines of text, positioned around the central illustration.

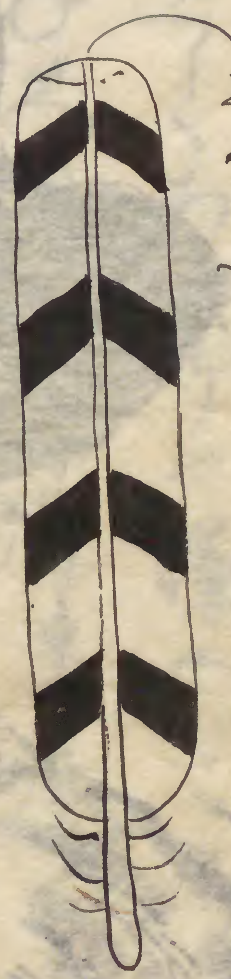


一隼乃相取て孰たさうあつてく日さう大
 えにちくちくあやうの弾乃こころ
 みしうしひたさう扇さうし重磨くは
 いろみく股大よ毛さうさつさうて
 いらちくさぬ^所さうさうさうさうさう
 く尾みくさうさうさうさうさうさう
 と結隼とさうさうさうさうさう

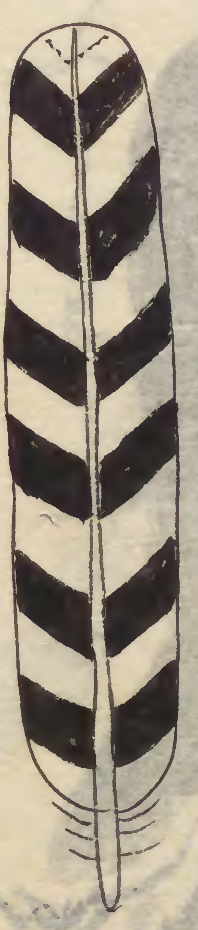
この羽

大の羽

この羽

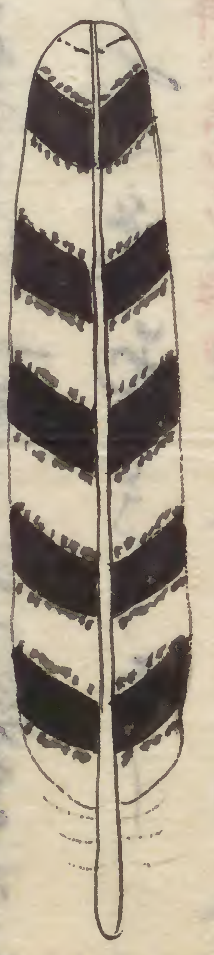


この羽の記号



この羽

この羽



羽の記号
この羽
この羽

Faint handwritten text in Japanese and English, including words like 'feather' and 'quill'.

のきりまのしほり
のきりまのしほり
のきりまのしほり
のきりまのしほり

九の端
りしと云

石毛と真白
のきりまのしほり
のきりまのしほり
のきりまのしほり

のきりまのしほり
のきりまのしほり
のきりまのしほり
のきりまのしほり

のきりまのしほり
のきりまのしほり
のきりまのしほり
のきりまのしほり

のきりまのしほり
のきりまのしほり
のきりまのしほり
のきりまのしほり

のきりまのしほり
のきりまのしほり
のきりまのしほり
のきりまのしほり

のきりまのしほり
のきりまのしほり
のきりまのしほり
のきりまのしほり

のきりまのしほり
のきりまのしほり
のきりまのしほり
のきりまのしほり

のきりまのしほり
のきりまのしほり
のきりまのしほり
のきりまのしほり

のきりまのしほり
のきりまのしほり
のきりまのしほり
のきりまのしほり

のきりまのしほり
のきりまのしほり
のきりまのしほり
のきりまのしほり

のきりまのしほり
のきりまのしほり
のきりまのしほり
のきりまのしほり

のきりまのしほり
のきりまのしほり
のきりまのしほり
のきりまのしほり

社
ハ子
可
可
可

葉
一
山
物
と
云
の
き
り
ま
の
し
ほ
り

のきりまのしほり
のきりまのしほり
のきりまのしほり
のきりまのしほり

一 白く

一 白く 指 白く

一 白く

一 白く

一 白く

一 白く

一 白く

一 白く 眉 白く

一 白く

一 白く

一 白く

一 白く

一 白く

一 白く

一 白く

一 白く

一 白く 右 白く

一 白く

足るなり侍

- 一 此の毛よりあるあり白髪より
- 一 乃伊包の黒毛よりある髪より髪を替へ
- 一 足物よりある黒毛よりある見物より
- 一 葉赤毛よりある髪より先髪より
- 一 此の毛よりある髪より
- 一 包の尾方事給付の髪より
- 一 是よりある九字の尾より
- 一 是の何よりある髪より

- 一 此の毛よりある髪より
- 一 此の毛よりある髪より
- 一 黄髪よりある髪より
- 一 黒髪よりある髪より
- 一 此の毛よりある髪より
- 一 尾よりある髪より
- 一 此の毛よりある髪より
- 一 毛よりある髪より
- 一 是の毛よりある髪より

一 澤ノ音ノカサニシテノカサニシテ
一 如クシテノカサニシテノカサニシテ
一 ノカサニシテノカサニシテノカサニシテ
一 ノカサニシテノカサニシテノカサニシテ
一 ノカサニシテノカサニシテノカサニシテ
一 ノカサニシテノカサニシテノカサニシテ
一 ノカサニシテノカサニシテノカサニシテ
一 ノカサニシテノカサニシテノカサニシテ
一 ノカサニシテノカサニシテノカサニシテ
一 ノカサニシテノカサニシテノカサニシテ

備ノ下三ノ
付テ急ノ
文言石ノ

一 備ノ下三ノ付テ急ノ文言石ノ
一 備ノ下三ノ付テ急ノ文言石ノ
一 備ノ下三ノ付テ急ノ文言石ノ
一 備ノ下三ノ付テ急ノ文言石ノ
一 備ノ下三ノ付テ急ノ文言石ノ
一 備ノ下三ノ付テ急ノ文言石ノ
一 備ノ下三ノ付テ急ノ文言石ノ
一 備ノ下三ノ付テ急ノ文言石ノ
一 備ノ下三ノ付テ急ノ文言石ノ
一 備ノ下三ノ付テ急ノ文言石ノ

一 糸目とふたよほきり物(糸目)

一 さく餅とふたよほきり物(さく餅)

一 雷餅とふたよほきり物(雷餅)

一 板目とふたよほきり物(板目)

一 糸目とふたよほきり物(糸目)

一 ちり餅とふたよほきり物(ちり餅)

一 ちり餅とふたよほきり物(ちり餅)

一 ちり餅とふたよほきり物(ちり餅)

一 ちり餅とふたよほきり物(ちり餅)

一 ちり餅とふたよほきり物(ちり餅)

一 ちり餅とふたよほきり物(ちり餅)

一 ちり餅とふたよほきり物(ちり餅)

一 ちり餅とふたよほきり物(ちり餅)

一 ちり餅とふたよほきり物(ちり餅)

一 ちり餅とふたよほきり物(ちり餅)

一 ちり餅とふたよほきり物(ちり餅)

一 ちり餅とふたよほきり物(ちり餅)

一 ちり餅とふたよほきり物(ちり餅)

一 かくらへちさあもらるる節より
一 かくらへちさあもらるる節より
一 かくらへちさあもらるる節より
一 かくらへちさあもらるる節より
一 かくらへちさあもらるる節より
一 かくらへちさあもらるる節より
一 かくらへちさあもらるる節より
一 かくらへちさあもらるる節より
一 かくらへちさあもらるる節より
一 かくらへちさあもらるる節より

一 かくらへちさあもらるる節より

一 別是と凡雑よちさあもらるる節より
一 別是と凡雑よちさあもらるる節より
一 別是と凡雑よちさあもらるる節より
一 別是と凡雑よちさあもらるる節より
一 別是と凡雑よちさあもらるる節より
一 別是と凡雑よちさあもらるる節より
一 別是と凡雑よちさあもらるる節より
一 別是と凡雑よちさあもらるる節より
一 別是と凡雑よちさあもらるる節より
一 別是と凡雑よちさあもらるる節より

一 巢をむねおむらるはくふぬとゆんたえと

一 ちかき

一 ちかき

一 ちかき

一 ちかき

一 ちかき

一 ちかき

一 ちかき

一 ちかき

一 ちかき

一 ちかき

一 ちかき

一 ちかき

一 ちかき

給付し

書し

一 ちかき

一 ちかき

たごめる十八八

一 夕らねるおろろ

夕の葉を吹

一 せせーのう

檀紙に染る葉二六に伝

一 せせろ澤水

小便

一 せせりう

男女のうん

一 せせつらぬのう

孩のうらぬ又草の切

一 せせつらぬのう

草のうらぬ

一 せせつらぬのう

生竹のうらぬ

一 せせつらぬのう

一字可除か
一せせつらぬのう

一 せせつらぬのう

女のうらぬ

一 野水

鶴乃らぬうらぬ

一 せせつらぬのう

らぬ葉の水は

一 せせつらぬのう

る竹のうらぬ

一 せせつらぬのう

銅のうらぬ

一 せせつらぬのう

の柳のうらぬ

赤三有

一 紅雪

初雪のうらぬ

一 澤のうらぬ

澤山のうらぬ

澤のうらぬ

一 百田國

謹神

一 摩訶陀國モコトクニ

俊鷹トシノトビ

一 震旦國シントクニ

胡鳥コトリ

一 新羅國シララクニ

摩仙マセン

一 契丹國キタンクニ

滿清マンシヨウ

一 唐土タウチ

鷹トビ

一 日牟國ニムクニ

鷹トビ

一 鷹トビ

一 御當家ミタウケ

鷹トビ

一 上諏訪ウヘスツタ

鷹トビ

白尾シロオビ

鷹トビ

一 下諏訪シモスツタ

鷹トビ

巢ネスト

鷹トビ

蒼アヲ

真マコト

一 中御官ナカミツリ

鷹トビ

一 行平ユキヒラ

鷹トビ

右依家ミナモトはし加事カコト之ノあしアシ也ヤ

字ナリとシるルとシるル又マタ鷹トビ聖ミヤコ 鷹トビ師シ

虎皮 ヘシカハ
鞣 メカメスキ
牽 アヒラ
大緒 オホシ
送物 イナモツ
一居 ヒトモト
一詩 ヒト
馬屋 トヤ

餌合子 エカアヒ
餌柄 エカガ
足緒 ヘシ
繚 オホシ
山緒 ヤマシ
一架 ヒト
一連 ヒト
箸鷹 ハシタカ

餌袋 エカ
志餌 シエ
轂 ハシ
虎繩 トラヒ
田緒 タシ
一本 ヒト
兒尾 コノシ
着る衣
多たりの物

鞞 シヤ
足組 シシ
豹尾 ヒョウビ
轆 トリ
一元 ヒトモト
一羽 ヒト
捻 ヒヨリ
多たりの物

右一巻之巻錦為高家秘術書依石
以意らと伝等と少令傳授畢蓋
不顧外口致且此其仁可被禁視使者
鷹書卷之一終

永正元年九月七日

小笠原備前守

政清

伊藤又右衛門尉

宗家

伊藤良成

天文七年二月八日

天正八年六月三日

寛永二年八月十二日

正家

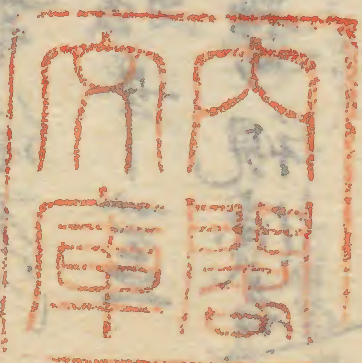
伊藤孫兵衛尉

注若挑菴法眼系行

宗秀

伊藤新五郎挑菴

不卜



[Faint, mostly illegible handwritten text in seal script, possibly bleed-through from the reverse side.]

